



# ～継続は力なり～

町田市立武蔵岡中学校  
バスケットボール部通信  
令和4年1月8日  
No.26 顧問 久保田浩史



## ～人生の先輩(元アシスタントコーチ)から学んだこと～

私は、前任校で現在の武蔵岡中学校同様に、部員数が非常に少なく、同じ区内で合同チームを組まないと公式戦に出場することができない状況の時期がありました。背景として、当該学年(当時の中2)は部員がいたのですが、両校ともに下級生(中1)に入部が0という年がありました。そのため、中3の引退直前に顧問同士で話をし、保護者や生徒に了承を得たのちに、新チームから合同チームの発足することが決まりました。

合同チームとしての練習がスタートしてまもなく、相手校の外部指導員を務めていたOさんと初めて自校の体育館で顔を合わせました。その日、私は、個人的な事情で遅刻してきた相手校の生徒を厳しく叱り、1時間半以上経過していた練習を初めからやり直すように話しをしていました。そんな私の姿をみて外部指導員のOさんは、とても心配したのではないかと推測します。なぜならOさんは、私より20歳以上年上であり、渋谷区のバスケットボール協会に長年従事されている(現在は理事長)バスケットボールに精通されている方で、区内の小学生の選抜チームを何年も指導されており、周囲からの信頼集め、指導力もある方でした。にも関わらず、驚くほど謙虚な姿勢で私に気を遣っていただき、常に温かく接していただきました。後々聞いた話ですが、Oさんは、私が生徒に指導している内容を生徒が本当に理解をしているのか。私がなににこだわって部活動運営・技術指導をしているのかを徹底的に理解することに努めてくれていました。そして、生徒が絶対に混乱しないように、一つの方向性に向かって頑張ることができるように、生徒にとって必要な助言を常にしてくれました。自分が逆の立場だったらと考えたときに、Oさんのような振る舞いができる自信は全くありません。「もっとこうしたほうがいいのに・・・」「自分が伝えたいことを生徒に伝えよう」と思っていたことと思います。しかし、Oさんは、必ず私の意向に沿った助言や修正を促す指導をしてくださいました。

結果として引退試合となった区大会決勝前日、少しでも練習時間を確保するため近隣の小学校の体育館を夜の時間にお借りし、最終調整を行いました。最終調整の時間が終わり、薄暗い近くの公園で翌日の決勝戦に向けて、前日ミーティングを行いました。そのミーティングの中でOさんは、これまでの生徒の努力と成長の過程をしっかりと伝え、「君たちはいいチームだと思う！」だけどそれだけでなく「君たちは強いチームになった！自分を信じて、仲間を信じて明日頑張ろう」と声をかけてくれました。その言葉を聞いて涙する生徒もいたほど最高潮のモチベーションになっていました。合同チームという特殊な状況にも関わらず、チームとして一つになることができたのは、毎日1時間近く前任校に通ってきてくれたS中の生徒とOさんのサポートのおかげと今振り返っても感謝しかありません。

最終的に、決勝戦で敗退し、都大会出場は叶いませんでしたが、学ぶもの得るもの心に残るものが多い素晴らしい合同チームとしての活動であったと感じています。

私がOさんから学んだことは、

- 1, 他者理解に徹し、自分ができるところに力を注ぐこと
- 2, 「プレーヤーズファースト」であり、コーチは選手のためにいること。  
※コーチのために選手がいるわけではない。
- 3, 選手の可能性を信じること。
- 4, 他者との比較ではなく、個人の成長に目を向けること。

先日約2年ぶりに再会することができ、これらのことを忘れずに、今後も心を入れて部活動指導を行っていきたくと再認識したのでここに書かせていただきました。